



ユネスコスクール便り

No.91

令和2年 6月 8日
大牟田市I社コスクール
担当者通信

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成



学校の教育活動が再開しました。学校でまたみんなと一緒に学ぶことができるという子ども達の喜び、期待に応えていくため、各校において様々な教育活動の工夫・充実が図られていることと思います。

臨時休業期間中、子ども達は、毎日のように新型コロナウイルス感染症のニュースに接し、自分と社会、世界とのつながりを感じ、立場や国籍を超えてこの問題の解決のために力を合わせる人々の姿を見てきています。そして、地球規模のグローバルな問題は、国際協力なくして解決できないということを学んでいることなのでしょう。今こそ、SDGs/ESDに取り組んできた大牟田の子ども達が、これまでの自分達の学びと行動の価値への自覚を深め、視野を広げて新たな一歩を踏み出す時ではないかと考えます。

教職員にとっても、カリキュラム・マネジメント力を高めるチャンスです。新しい生活様式の下で、制限される学習活動もある中、できることを充実させたり、やり方を工夫したりしてカリキュラムの工夫・充実を図っていききたいものです。

子ども達同様に私達も学び続ける存在として、現在起きている予測不可能な状況、困難な状況に対して知恵や考えを出し合い、ともによりよい教育をつくりだしていきましょう。

● 本年度の役員・委員等

本年度のユネスコスクール担当者会役員等を紹介します。

〈令和2年度 ユネスコスクール担当者会〉

会長：松尾 博之（大正小）、野田 環紀（宮原中） 担当校長：荒木 秀敏（天領小）

副会長：川崎 由美子（倉永小）、杉野 浩二（宮原中） 担当教頭：宮崎 紀子（みなと小）

部長：下地 徹（みなと小） 副部長：坂口 洋章（白光中）

推進委員：森永 隆二（手鎌小）、廣松 隆広（玉川小）、渡邊 憲昭（高取小）

特色ある実践事例の紹介

郷土の歴史を知り、文化を引き継ぐ 手鎌小学校



本校の4年生は、郷土の歴史を知り、文化を引き継ぐ学習を行っています。子ども達は、「手鎌の歴史と里山の会」の皆さんから校区の歴史を学び、自分達が住む手鎌校区の土地は1000年以上に渡って干拓事業を行ってきた人々の努力と苦勞によって築かれたことを知りました。そして、「黒崎渦いね踊り保存会」の皆さんから、干拓の力仕事の様子と仕事に携わった人々の気持ちを生き生きと表現した「渦いね踊り」を教わり、踊りを引き継ぐことによって、先人の思いを理解していきました。

そして、学んだことを地域の「ふれあい文化祭」や大牟田市校区コミュニティ研究大会で発表し、地域の伝統を発信するとともに、「渦いね踊り」を今後も受け継いでいきたいと、思いを高めることができました。



渦いね踊りを披露する子ども達

教えて！ 大牟田のESD



大牟田のESDに関する情報をQ&A形式でお届けします！

Q：大牟田市が加盟認定された「RCE」とは何ですか？

「RCE」は、国連大学*が推進・認定している持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点（Regional Centre of Expertise on Education for Sustainable Development）です。学校や教育委員会等の教育機関と自治体、大学、民間企業、各種団体等でネットワークをつくり、協働して活動しながらESDを推進していくものです。大牟田市は、日本国内で8番目に加盟を認定され、昨年2月27日に認定式が行われました。RCE認定を機に、大牟田市は、国内及び国際的なネットワークを生かしたESDをより一層推進し、誰もが幸せに安心して暮らし続けることができるまちづくりを目指します。

*国連大学は、国際連合の自治機関で、地球規模の課題の解決に取り組むため、共同研究や教育、政策提言などを行っており、国連加盟国の大学や研究機関と連携し、さまざまなプロジェクトや研究を進めています。

